

問題1 下記の文は、生涯スポーツとウェルビーイングの関連性を理解する枠組みとしての「生涯スポーツキューブ」の開発と応用に関する論文の抄録です。論文抄録の下線部を読んで、以下の問いに応えなさい。

著作権上の問題により掲載しておりません。

出典：「生涯スポーツ学研究」第22巻1号 p1 2025

- 問1 1行目を日本語に訳しなさい。
- 問2 本研究では、どのようなデータを利用して分析を進めたのかを説明しなさい。
- 問3 データを分析した結果、現在の日本の生涯スポーツ参加者が3つに細分化されることが明らかになったと述べられています。その3つの志向を列挙しなさい。
- 問4 本研究の結果から、生涯スポーツ及びウェルビーイングを向上させるためにはどのような参加が重要だと示唆されたのかを説明しなさい。
- 問5 生涯スポーツキューブは、どのような点で有用な枠組みだと結論付けているのかを説明しなさい。

問題2 以下の「The misconception that humidity accounts for 70% of WBGT」の英文をすべて日本語に訳しなさい。

著作権上の問題により掲載しておりません。

WBGT：湿球黒球温度 heat stroke：熱中症 wet bulb temperature：湿球温度

(Taiko Kudo：The misconception that humidity accounts for 70% of WBGT,Jpn.J.Biometeor.62(1)：13-19,2025.より引用)

【出題の意図】

研究活動に不可欠な学術文献の読解力や情報収集能力を確認する。英語の基礎的理解力、学習・研究を自立して進めるための基礎的学力を評価する。

問題 1

問 1 生涯スポーツ参加とウェルビーイングの向上は、日本におけるスポーツ政策の重要な焦点である。

問 2 本研究では、スポーツ庁が 2024 年に実施したスポーツ参加に関する全国調査の二次データを利用した。

問 3 ①「競技・楽しみ・健康志向」 ②「楽しみ・健康志向」 ③「健康志向」

問 4 これらの結果は、健康を目的とした参加だけでは生涯スポーツへの参加およびウェルビーイングの向上には不十分であり、楽しさや競技性に基づく参加の重要性を示唆している。

問 5 生涯スポーツキューブは、参加者をセグメンテーション（細分化）し、異なる志向が参加パターンやウェルビーイングとどのように関連しているか理解する上で有用な枠組みである。

問題 2

WBGT（湿球黒球温度）は、もともと屋外作業や運動競技など激しい活動を行う人々の熱ストレスを測定するために開発された指標であるが、日本では一般の人々に熱中症の危険性を警告する指標として用いられている。

熱中症予防対策の一環として WBGT の認知度向上を図るため、WBGT 算出に用いられる湿球温度を相対湿度指標として説明しようとする図解が広く引用・拡散された。この図解により、WBGT には、相対湿度の寄与が 70%であり、気温の寄与はわずか 10%に過ぎないという誤解が生じている。

言うまでもなく、熱中症対策において湿度のみに注目して温度を軽視することは極めて危険であり、この誤解に基づいた不適切な行動が取られれば、かえって熱中症のリスクを高める可能性がある。

したがって、WBGT に関して広く行き渡っている誤った認識を明確にし、温度と湿度が人体の放熱能力にどのように影響して熱中症を引き起こすのかについて、一般の人々に正しい知識を提供することが極めて重要である。